

## 小児心臓外科医への道

確立していない治療法に対して工夫の余地があるなど  
大変やりがいのある興味深い分野



ポリクリで外科が楽しく、具体的な目標もないまま複数の選択肢がある第二外科に入局しました。研修医時代は何をやっても楽しく、ただ睡魔に弱く心臓外科は無理だろうと言われていました。消化器外科、小児外科を研修し、やはり心臓外科も経験したいと希望して兵庫県立姫路循環器病センターに勤務させていただきました。「前立ちの順手サイドは前立に縫わせる」という指導法で早くから手術経験を積ませてもらいました。当時の上司が内胸動脈を超音波メスで採取するという方法の有効性、安全性を実験でも実証して全国に普及させられたのを間近で見て心臓血管外科の楽しさを一層実

感しました。途中、渡米や、大学院勤務も経て、卒後12年目に大北裕教授から「先天性も勉強しておく必要がある。」と助言頂き、兵庫県立こども病院に赴任しました。あまりの違いにカンファレンスも聞き取れず挫折感も大きかったです。次第にその魅力にとりつかれました。一例一例にあらゆる選択肢と危険性と対処方法をとことん考えないといけないけれど、考えたことが結果を左右することがあること、まだまだ確立していない治療法に対して工夫の余地があるなど大変やりがいのある興味深い分野です。時に辛く悔しい思いもしますが、重症だった赤ちゃんが元気な姿を見せてくれるのは

大きな喜びです。大嶋義博先生の忍耐強いご指導とこの分野に巡り合わせて頂いた医局に感謝しています。最近女性医師ネットワークも充実し、臨床のこと（臨床外の事も…）について他施設の情報を聞き、時に励みに、時に慰みになっています。小児心臓外科の道は険しく医者23年目で道半ばですが、1年前に兵庫県西の拠点となるべく加古川中央市民病院の心臓血管外科に小児部門を立ち上げ

ました。大保英文先生には姫路時代に引き続き再び大変お世話になっており、周囲に助けられながらですが総合病院の強みを生かして診療に、後輩育成に貢献したいと思っています。また私事ですが自身の子も3人産ませていただき休職したのは3人分を合わせて1年以下だったとは言え、医局員中心に多大なサポートがあったことに感謝の意を表します。

圓尾 文子  
所属施設：加古川中央市民病院 心臓血管外科  
卒業大学：神戸大学医学部  
経歴：  
1995年 神戸大学附属病院第2外科  
1996年 兵庫県立淡路病院外科  
1997年 愛仁会高槻病院小児外科  
1998年 兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科  
1999年 Mayo clinic で visiting clinician, research trainee  
2001年 兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科  
2004年 神戸大学附属病院心臓血管外科  
2005年 兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科  
2007年 兵庫県立こども病院心臓血管外科  
2016年 加古川中央市民病院心臓血管外科  
趣味：食べること、最近読書  
好きな言葉：正対

